母親を取り巻く「育児ネットワーク」の比較機能
—学歴、就業形態、ネットワーク構成員との心理的距離の影響—

〇金 娟鏡
(東京学芸大学大学院)
内藤哲雄
(信州大学人文文学部)

【問題】金(2007a)は、幼児の母親を対象にPAC分析を行い、母親を取り巻く「育児ネットワーク」が、母親役割を評価する際の比較の基準値をもたらすこと、すなわち「育児ネットワーク」が比較機能を有することを報告した。本研究では、母親の学歴、就業形態、そしてネットワーク構成員との心理的距離を取り上げ、それらが「育児ネットワーク」の比較機能に及ぼす影響について検討する。

【方法】1. 調査対象：3歳～6歳の幼児をもつ母親208名。東京都内の幼稚園・保育所を通じて、2006年2月～6月に、調査票を配布・回収した。2. 調査内容：1)「育児ネットワーク」の比較機能：ネットワーク構成員は、「夫」「自分の親」「夫の親」「親せき」「園の先生」「園の母親同士」「友人」「近くの友」の8つのカテゴリーとした。次いで、母親役割行動(金, 2007b)の6つの側面（会話・共感的な関わり（7項目）、早期教育への働きかけ（6項目）、身边自立への促し（5項目）、子育てと食事のマナー遵守への注意（4項目）、子どもの人間関係への側面援助（3項目）、食生活への配慮（2項目））に関して、「自分の母親としての行動と照らし合わせている」と感じる構成員のカテゴリーにチェックを求めた（複数回答可）。2）学歴、就業形態、ネットワーク構成員との心理的距離：ネットワーク構成員との心理的距離については、「とても近い」～「とても遠い」の10件法である。

【結果】1）「育児ネットワーク」の比較機能の得点化：チェックリスト方式を用いて算出される得点は、加藤(1977)に従い、次の式とし(「育児ネットワーク」の構成員ごとに、母親役割行動の各側面においてのチェック項目数を当該側面の総項目数で除し、100乗じたものを、当該役割行動の当該構成員への比較機能得点とした。2） 「育児ネットワーク」の比較機能に及ぼす影響：学歴、就業形態、ネットワーク構成員との心理的距離の関連：学歴、就業形態、ネットワーク構成員との心理的距離が「育児ネットワーク」の比較機能に及ぼす影響を検討するために、学歴、就業形態、ネットワーク構成員との心理的距離を独立変数、「育児ネットワーク」の比較機能得点を従属変数とするカテゴリカル回帰分析を行った(Table.1)。

(母親役割行動の各側面の総項目数が異なるため、比較機能得点は、z得点に変換した値を用いた)

【考察】学歴、就業形態、ネットワーク構成員との心理的距離のうち、就業形態からの影響がもっとも多くみられ、いずれも正の関連を示す。つまり、専業主婦の母親より働く母親のほうが、相対的に多くネットワーク構成員の育児への言動と自分の母親役割行動と照らし合わせていたのである。働く母親の場合、専業主婦の母親のように育児に十分な時間を費やすことができない、かといって幼児の世話に手を抜くこともできない状況(金, 2000)の中で、母親としての自身を評価しようとする動機が高まっていることによるのではないかと考えられる。他方、ネットワーク構成員による差異に注目してみると、「夫」と「夫の親」については、学歴の影響もみられ、いずれも負の関連を示した。高学歴の母親より非高学歴の母親にとって、早期教育や生活上の基本的な技能を身につけさせるといった母親役割行動に関して、「夫」と「夫の親」が比較対象として重要な役割を果たしていると考えられる。